

## 国語科 中学校第3学年カリキュラム

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
4	1 読む[詩(巻頭詩)] 「生命は」 ◎詩の意味や効果的な表現を捉え、読み方を工夫して音読する。	C(1)ア	1		・詩に込められた心情を捉え、読み方を工夫して音読する。	○詩のリズムを味わい、音読を楽しむ。		
	読む[言語感覚] 「言語の有限性と無限性」 ◎対比された言葉に注意して、筆者の主張を捉える。	C(1)ア	1		・心情を表すさまざまな言葉に注意して、筆者の主張を捉える。	○様々な文章の形式についての特徴や効果などについて評価し、文章を書く際に役立てる。		
	「俳句の読み方、味わい方」 ◎表現の工夫に着目して、俳句を読み味わう。 ◎俳句の良さを評価してまとめる	C(1)ア C(1)ウ	3		・情景や心情を表す語句に注意して、短歌を読み味わう。 ・短歌の表現の工夫などを捉えて、鑑賞したことをまとめる。	○短歌で学んだ表現の工夫などを想起する。		■「俳句五句」から一句を選び、その句の良さを評価して、鑑賞文をまとめる。
	書く[詩歌創作] 「俳句を作って句会を開こう」 ◎俳句を作って互いに読み合い、作品の良さを評価する。	B(1)エ	2		・自然や体験の描き方を工夫して、短歌を作る。	○普段から、四季の移ろいや季語に関心を持たせるようにする。語彙を広げるように指導を工夫する。		
	言葉 [日本語探検] 「言葉の移り変わり」 ◎言葉の変化について理解する。	伝・国イ(ア)	1		・話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解する。	○言葉が生活と密接に関連していることを実感させ、実生活に生きる言葉の力を身につけさせる。敬語は、社会生活の中で相手や場面に応じて適切に使い分けできるようにする。		
	言葉 [漢字道場 1] 「熟語の構成・熟字訓」 ◎熟語の構成や熟字訓について理解する。	伝・国ウ(ア) 伝・国ウ(イ)	1		・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読む。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使う。	○学年別漢字配当表に示している漢字は、他教科の学習や社会生活において使用することの多い漢字であり、多様な語句の形で使ったり、文脈の中で使ったりすることができるようにする。		◆熟語(二字・三字)の構成と熟字訓を理解しよう。
5	2 読む [文学一] 「形」 「風の唄」 ◎場面や登場人物の設定の仕方を捉えて、作品を読み味わう。 ◎場面の展開や表現の仕方に着目し、作品を評価する。	C(1)イ C(1)ウ C(1)ア	8		・登場人物の言葉や行動がどんな意味をもっているかに注意して、作品を読み味わう。 ・登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えを持つ。	○書き手の論理の展開についての意図をとらえ、また、作品の展開や内容と場面や登場人物の設定の関わりをとらえる。		■「形」について、もともとなった話と読み比べて、違いを捉える。

	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
	言葉〔漢字道場 2〕 「四字熟語」 ◎四字熟語の構成について理解し、さまざまな四字熟語を知る。	伝・国イ(イ) 伝・国ウ(ア) 伝・国ウ(イ)	1		・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読む。学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使う。	○学年別漢字配当表に示している漢字は、他教科の学習や社会生活において使用することの多い漢字であり、多様な語句の形で使ったり、文脈の中で使ったりすることができるようにする。		
	話す・聞く〔聞く〕 「聞き取って評価しよう」 ◎聞き取ったことをさまざまな観点から評価して、自分の考えや表現に生かす。	A(1)ウ	3		・問題意識を持って相手の話を聞き、自分の考えと比較する。	○司会や議長の立場だけでなく、話し合いの過程を客観的に把握したり展開を考えたりして、課題の解決に向かうようにする。		■複数の意見やスピーチを聞き、さまざまな観点から評価する。
6	3 読む〔構成・展開〕 「絶滅の意味」 ◎論理の展開の仕方に着目して、文章の内容を読み取る。 ◎人間社会と自然との関わりについて考え、自分の意見を持つ。	C(1)イ C(1)エ	4		・文章全体と部分との関係や、筆者の書き方の工夫に注意して、内容を読み取る。 ・筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ。	○様々な文章の形式についての特徴や効果などについて評価し、文章を書く際に役立てる。		
	言葉〔日本語探検 2〕 「形が決まった言い方・慣用句」 ◎形が決まった言い方や慣用句について理解する	伝・国イ(イ)	1		・抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。	○慣用句については、小3・4での既習事項である。慣用句に関する知識を一層広げるようにする。		
	言葉〔漢字道場 3〕 「送り仮名」 ◎送り仮名の付け方について理解する	伝・国ウ(ア) 伝・国ウ(イ)	1		・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読む。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使う。	○学年別漢字配当表に示している漢字は、他教科の学習や社会生活において使用することの多い漢字であり、多様な語句の形で使ったり、文脈の中で使ったりすることができるようにする。		
7	書く〔伝達〕 「編集して伝えよう」 『日本文化』のガイドブック ◎読み手に合わせて、記事の内容や形式を工夫して書く。 ◎書いた文章を読み返し、表現を整えて紙面を仕上げる	B(1)ア B(1)ウ B(2)イ	7 (+1)	「絶滅の意味」での学習を生かして読み手が関心を持ちそうな内容を選び、興味深い記事になるように形式を工夫して書かせたいので必要である。	・ふだんの生活やメディアなどで見聞することからテーマを決めて、調査する。 ・調べて分かった事実や自分の考えが明確に伝わるように、構成を工夫してレポートを書く。	○様々な課題を対象とし、課題に関する材料を多様な方法で集める中で、考えを改めたり、別の角度から検討したりする過程を重視し、課題に対する考えを一層深める。		■読み手に合わせて、記事の内容や形式を工夫して書く。書いた文章を読み返し、表現を整えて紙面を仕上げる。
	読む〔読書〕 「星の航海術一心の中に島が見えるか」 「本で世界を広げよう(異文化理解)」 「本の世界を楽しもう」 ◎さまざまな読み広げによって、知識を広げ、考えを深める。	C(1)オ C(2)ウ	3		・さまざまな情報源からの情報を比べて、まとめる。	○日常生活における継続的な読書活動を促し、新たな知識や考えが次の読書に結び付いていくことを実感させるようにする。		

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
7	4 古典 「万葉・古今・新古今」 ◎それぞれの和歌が詠まれた背景や作者の心情について考える。 ◎鑑賞文を書くことを通して、和歌の世界に親しむ。	伝・国ア(ア) 伝・国ア(イ)	3		・古文特有のリズムを味わいながら音読を楽しむ。 ・自然や事物に対する筆者のものの見方や感じ方を捉える。	○書く活動を通して、自分の考えを述べる文脈の中に古典の世界を取り入れるようにする。		■発展として「百人一首」に取り組む。
8	「おくのほそ道」 ◎優れた表現や文体の特徴に注意して作品を読み味わう。 ◎作品に込められた作者の思いを詠み深める。	伝・国ア(ア)	4		・現代語訳を手がかりにして内容を読み取る。 ・随筆に表れた筆者のものの見方や考え方を捉える。	○書く活動を通して、自分の考えを述べる文脈の中に古典の世界を取り入れるようにする。		
9	「論語」 「古典の言葉を味わおう」 ◎現代にも通じる古人のものの見方や考え方を捉える。 ◎古人の言葉をもと人間の生き方について考える。 ◎さまざまな古人の言葉に触れて考えを深める。	伝・国ア(イ)	2		・表現の特徴を捉え、繰り返し朗読して漢詩の世界を楽しむ。 ・それぞれの漢詩に描かれている情景や作者の思いを捉える。	○書く活動を通して、自分の考えを述べる文脈の中に古典の世界を取り入れるようにする。		
	書写 「無限の可能性」 「俳句の短冊」 ◎漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く。	伝(2)ア	10		・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く。 ・目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書く。	○目的や必要に応じて、小学校から身に付けてきた書写の能力を総合的に発揮させるようにする。		
10	言葉 [漢字道場 4] 「紛らわしい漢字」 ◎形や音の似た、紛らわしい漢字に注意する。	伝・国ウ(ア) 伝・国ウ(イ)	1		・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読む。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使う。	○学年別漢字配当表に示している漢字は、他教科の学習や社会生活において使用することの多い漢字であり、多様な語句の形で使ったり、文脈の中で使ったりすることができるようにする。		
	言葉 [文法の窓 1] 「間違えやすい敬語」 ◎間違えやすい敬語に注意し、正しい敬語の使い方を理解する。	伝・国イ(ア)	1		・話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解する。	○言葉が生活と密接に関連していることを実感させ、実生活に生きる言葉の力を身につけさせる。敬語は、社会生活の中で相手や場面に応じて適切に使い分けできるようにする。		
	話す・聞く [話す] 「場面に応じて話そう —条件スピーチ」 ◎経験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して、話す内容や話し方を考える。 ◎敬語を適切に使い、場の状況や相手に応じた話し方を考える。	A(1)ア	5		・聞き手の立場や考えを想定し、説得力のある話を組み立てる。 ・資料や機器を活用して、分かりやすく印象的に話す。	○目的・相手・時間など場の状況に応じた話し方を考える。		■敬語を適切に使い、場の状況や相手に応じた話し方を実演する。

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例 ◆課題
10	読む [詩 (日本語の調べ)] 「初恋」 ◎表現の特徴を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。	C(1)ア	1		・詩に描かれた情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。	○詩のリズムを味わい、音読を楽しむ。		
	5 読む [吟味・判断] 「テクノロジーとの付き合い方」 「テクノロジーと人間らしさ」 ◎語句の使い方など、表現上の工夫に着目して、内容を読み取る。 ◎文章を読み比べて、それぞれの文章の書き方について評価する。 ◎文章を読み比べて、文章の内容について自分の考えを持つ。	C(1)ア C(1)ウ C(1)エ C(1)イ	4		・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる。	○様々な文章の形式についての特徴や効果などについて評価し、文章を書く際に役立てる。		
11	言葉 [日本語探検 3] 「和語・漢語・外来語」 ◎和語・漢語・外来語の特徴について理解する。	伝・国イ(イ)	1		・多義語の特徴について理解する。	○言葉が生活と密接に関連していることを実感させ、実生活に生きる言葉の力を身につけさせる。		
	言葉 [漢字道場 5] 「間違えやすい言葉」 ◎読み間違えたり書き間違えたりしやすい言葉に注意する。	伝・国ウ(ア) 伝・国ウ(イ)	1		・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読む。 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使う。	○学年別漢字配当表に示している漢字は、他教科の学習や社会生活において使用することの多い漢字であり、多様な語句の形で使ったり、文脈の中で使ったりすることができるようにする。		
	書く [論証・説得] 「観察・分析して論じよう—批評文」 ◎批評の対象について、観察・分析したり、比較したりして、自分なりの判断を下す。 ◎論理の展開を工夫し、資料を参考にしたり引用したりして、説得力のある批評文を書く。 ◎書いた批評文を読み合っって批評し、ものの見方や考え方を深める。	B(1)ア B(1)イ B(1)エ B(2)ア	6 (+1)	「テクノロジーとの付き合い方」 「テクノロジーと人間らしさ」では語句の使い方や、表現上の工夫に着目して読み取ること、また文章を読み比べて、それぞれの文章の書き方について評価したり、自分の考えを持つこと学習した。そのことを生かしながら、批評文を丁寧書くために必要とする。	・自分の立場を明確にして、分かりやすい構成で意見文を書く。 ・意見が効果的に伝わるように、根拠を具体的に記述したり、他の立場への反論を盛り込んだりする。	○様々な課題を対象とし、課題に関する材料を多様な方法で集める中で、考えを改めたり、別の角度から検討したりする過程を重視し、課題に対する考えを一層深める。		
12	読む [文学二] 「故郷」 ◎場面の展開と人間関係の変化を捉えて、作品を読み深める。 ◎作品を読んで、社会の中で生きる人間について考え、自分の意見を持つ。	C(1)イ C(1)エ C(2)ア	5 (+1)	文脈中における効果的な表現や文章の特徴をとらえ、作者の表現意図や主題を探ることに時間を必要とする。 作品全体を読み、表現の工夫などについて、自分なりの意見をもてるようにさせるために丁寧に扱いたい。	・人物や情景の効果的な描写に着目して、作品を読み深める。 ・場面の展開や表現の仕方について、自分の考えをまとめる。	○書き手の論理の展開についての意図をとらえ、また、作品の展開や内容と場面や登場人物の設定の関わりをとらえる。		■作品を通して、自分の生き方を考え、感想を記入させる活動を取り入れる。

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例 ◆課題
1 2	言葉 [漢字道場 6] 「漢字いろいろ」 ◎いろいろな漢字を知り、言語生活を豊かにする。	伝・国ウ(ア) 伝・国ウ(イ)	1		・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読む。 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使う。	○学年別漢字配当表に示している漢字は、他教科の学習や社会生活において使用することの多い漢字であり、多様な語句の形で使ったり、文脈の中で使ったりすることができるようにする。		
	読む [読書] 「何のために『働く』のか」 「本で世界を広げよう〈現代社会〉」 ◎読書のさまざまな目的を考え、読書生活を豊かにする。	C(1)オ C(2)ウ	3		・複数の本を読んで、比べながら考えをまとめ、紹介する。	○日常生活における継続的な読書活動を促し、新たな知識や考えが次の読書に結び付いていくことを実感させるようにする。		
1	読む [言葉とメディア] 「『正しい』言葉は信じられるか」 ◎文の順序や語句の使い方に注意して読む。 ◎文章を読み比べ、構成や表現の違いについて考える。	C(1)ア C(1)ウ C(2)イ	4		・情報を得ることについての筆者の考えを捉え、自分の考えを持つ。 ・書籍やインターネットを使って情報を集め、それらの情報の特徴について考える。	○様々な文章の形式についての特徴や効果などについて評価し、文章を書く際に役立てる。		■生徒自身が普段からどんなメディアを活用しているか確認し、将来に向けてどんな力をつけなくてはならないかを話し合わせる。
2	言葉 [漢字道場 7] 「新しい常用漢字」 ◎新しい常用漢字について理解する	伝・国ウ(ア) 伝・国ウ(イ)	1		・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読む。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使う。	○学年別漢字配当表に示している漢字は、他教科の学習や社会生活において使用することの多い漢字であり、多様な語句の形で使ったり、文脈の中で使ったりすることができるようにする。		
	言葉 [文法の窓] 「文法のまとめ」 ◎文法的な性質の異なる語の見分け方を通して、文法の復習をする。	伝・国イ(イ)	2		・文の成分の照応が曖昧な文は、二通り以上の意味にとれてしまうことがあることを理解する。	○言葉が生活と密接に関連していることを実感させ、実生活に生きる言葉の力を身につけさせる。敬語は、社会生活の中で相手や場面に応じて適切に使い分けできるようにする。		
	話す・聞く [話し合う] 「話し合いで問題を解決しようーチャート式討論」 ◎話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫する。 ◎問題の解決に向けて、お互いの考えを生かし合う。	A(1)エ A(2)イ	5		・さまざまな情報手段を使って討論のテーマを決め、自分たちの提案をまとめる。 ・司会者やパネリストの役割を押しさえ、目的に沿って話し合う。	○司会や議長の立場だけでなく、話し合いの過程を客観的に把握したり展開を考えたりして、課題の解決に向かうようにする。		■少人数グループを活用し、普段から、社会生活、学校生活の中で言葉に関する疑問や違和感等を考え、話し合わせる。

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
3	読む【詩（詩の言葉）】 「レモン哀歌」 ◎効果的な言葉の使い方に注意して詩を読む。 ◎詩に描かれた人物の関係について考え、感想を持つ。	C(1)ア C(1)エ	2		・詩に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ。	○様々な文章に表れているものの見方や考え方から、人間、社会、自然などについて思いを巡らせる。		◆効果的な言葉の使い方に注意して詩を読もう。 ◆詩に描かれた人物の関係について考え、感想を持とう。
	読む【読書】 「最後の一句」 「日本の名作を読もう」 ◎文学作品を読み、人間や社会について考える。	C(1)エ	3		・文学作品を読み、登場人物の考え方や人柄などについて考える。	○様々な文章に表れているものの見方や考え方から、人間、社会、自然などについて思いを巡らせる。		◆文学作品を読み、人間や社会について考えよう。
	読む【読書】 「楼蘭の夜」 ◎先人の生き方の根底にあった思いを受け止める。	C(1)エ	3			○様々な文章に表れているものの見方や考え方から、人間、社会、自然などについて思いを巡らせる。		◆先人の生き方の根底にあった思いを受け止めよう。
	合計		105					



